

# コミュニティ ムスッ

私と人とまちの間に

2016.JUN  
109号

6

編集発行

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

もくじ CONTENTS

FEATURE

## 種を蒔け

- 2 夢を叶えたドラえもん
- 4 銀色の波 ~北山田ビニールハウス群の守人たち~
- 5 “つくる”と“たべる”の間で
- 7 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~
- 8 みんなとめん・めん イベントのスヌメ
- 9 より道こ道 「萩の玉川」
- 10 事業団からのお知らせ/そのまちに…ICT
- 11 草津Q/Next きみたちの草津/ボイス
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第21回 「たり苦しい」その2  
読者の声

### 勝負の夏

偶然、市内のグラウンドで少年野球の大会に出会いました。ウェイトニングサークルで4番打者が静かに待ちます。ベンチからの指示も聞こえないほどの声援、彼だけが静寂の中にいます。見つめているのはマウンドか、それとも自分の心の中か。今、ピッチャーと眼が合いました。さあ、夏がきます。

さあ6月、梅雨を迎えます。洗濯物は乾かないし、食品は傷みややすい、外には出にくいと気分はどんよりしてしまいますね。ここは一つ晴耕雨読を決め込み、本の世界で時間や空間を飛び越えたり、お気に入りの雨具グッズをひとつ手に入れ、逆に雨を楽しんだり、あなたならではの梅雨の楽しみ方を見つけてみましょう。



FEATURE

# 夢を叶えた ドラえもん

中村 弥宜さん

草津プレミア米「匠の夢」生産者産者

桜の季節を過ぎ、田んぼに水が張られると目を覚ました蛙たちが「斉に鳴きだしました。初夏の空の下、広がる田園の上を風がさわやかに吹きぬけます。草津プレミア米「匠の夢」の生産者の一人である中村弥宜さんを訪ねました。中村さんは現在30歳、草津の農の現在、そしてこれからのお話です。今日、あなたが食べたご飯はどこで作られたお米ですか。

## 本気やったんか

中村さんはここ志那中で代々兼業農家を営む家で育ちました。お父さんが消防士の傍らにする農業を、小さなころから手伝って

きました。高校卒業を前にして、進路の選択をするときも迷わず「農業」と決めていましたが、実はお父さんは先々のことを考え、田んぼを手放す準備を進めていました。

子どものころから家族や近所の人たちが田んぼで見せる農作業の姿にあこがれ、「いつかはカッコいいトラクターに乗って、地元で農業をする」と決めていた中村さん。「農業だけをしたくない」と「サラリーマンをしてはどうか」と勧める父。世間とは逆のパターン。何回も反対されながら精いっぱい自分の志を伝え、なんとか説得できたそうです。「近所の人からも『お前、本気やったんか』なんて言われましたよ。」

すでに農業を辞めるつもりで

いた中村家。この時には大方の農業機械も処分していました。

唯一、残っていたトラクター一台からの出発でしたが、晴れて中村さんの夢が叶いました。

## 毎々が一年生なんや

しかし、農業は見ていた時と職業にするのでは全く違う。なにせ自然が相手の仕事、天候にも左右されます。「会社勤めだと誰かが教えてくれたり、マニュアルがあつたりするでしょ。そんなものがないんです。作物の育て方の本はあつても、実際はその通りにはいかない。だから、よそのやりかた

を見たり聞いたりしながら、自分のやりかたを見つけていくしかないんです」。この言葉のとおり試行錯誤の日々でした。ある年には、にっちもさっちもいかなくなつてしまい、近所の人と話しても悩みから抜け出せない。途方に暮れ、立ち尽くしていた時、近所の農家の人が話しかけてきました。「この仕事は毎々が一年生なんや。たとえ今年成功しても、来

年うまくいくわけじゃない。だからその年に合った農業をしたら

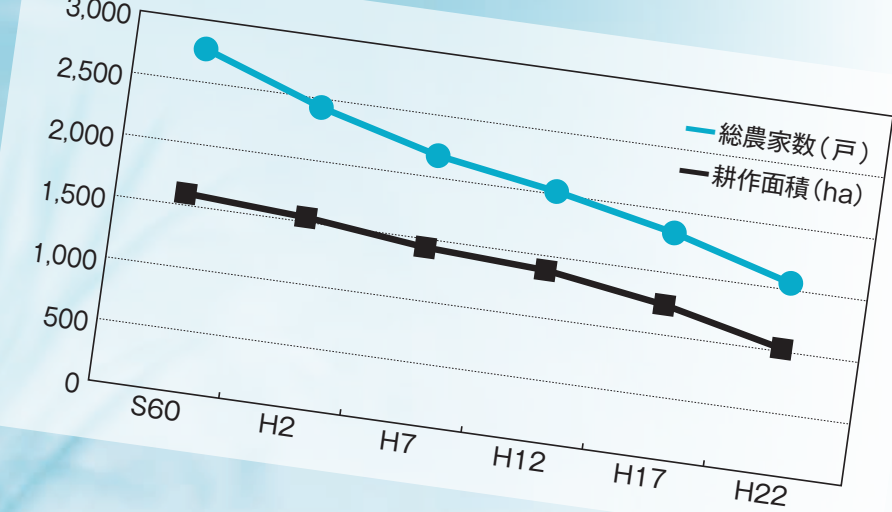
良い」と言われました。中村さんは農業に正解がないことを改めて教えてくれたこの言葉に救われたと言います。それからというもの今年の失敗を踏まえ来年はこつしよう、と、ひとつずつ歩んでいくうちに、今では自分の農業が少しずつ見えてきました。

もう一つ、若き農業者を支えてくれたもの、それは草津市農業後継者クラブの存在です。このクラブは市内で40歳未満の農業従事者による集まり。中村さんのようなお米農家のほかに、野菜や園芸の農家も参加し、消費者との交流や各自課題を設定した自主研究など、様々な角度から農業を見つめます。世代を超えたタテ系でノウハウを受け継いでいくことが難しい現在、草津の農でつながる同世代がヨコ系で支え合う、現在そしてこれからの農業のヒントがここにあります。

## 草津の米を草津の人に

現在、草津プレミア米「匠の夢」は認定業者9名のメンバーで生産。その一人として中村さんも頑張っています。「草津のお米は美味しい。だけど、これらのお米は全国市販のブランドになつてしまつて、結局スーパーには『草津産』としてのお米が並ばない。やっぱり草津の人に草津のお米を食べてほしいですよ」。そこで生産者とJAが話し合つて取





り組んだのがプレミアム米「匠の夢」です。オール有機のこだわり肥料を使用し、厳しい乾燥調整をしながら基準値85点以上・外観1等級をクリアしたコシヒカリだけがプレミアム米「匠の夢」として販売されます。といつても自然が相手の農業ですから、いつも上手くいくとは限りません。厳しい基準検査をクリアできなかつた場合は、普通のコシヒカリとして出荷されることとなります。

**この景色を守るため**

この辺りは農業振興地域、豊かな田畑が広がる風景は中村さんの幼いころから変わってませんが、押し寄せる高齢化の波は避けられません。跡継ぎがなく、農業を断念せざるを得なくなつた田畑を中村さんは積極的に預かり耕します。「僕は生まれ育つたこの景色が大好きです。今は一枚一枚小さい田んぼですが、効率の良い大規模農業も大切だと感じています。なんとか耕作放棄地をつくらないことで、この景観を保ちたい。おこがましいけど、田んぼを続けることでこの景色を守つていきたいんです」。中村さんを育んだこの景色は今も健在です。

若い作業着がトレードマークの中村さんは近所の子どもたち「ドラえもん」と呼ばれているとか。学校の行き帰りには「ドラえもん、おはよう。行つてきます」と声をかけてくれます。ドラえもんは近所のおっちゃんやお母さんたちとも、お米や食の話で立ち話。「僕には農業が人生そのもの。土の上にいると幸せやなあってつくづく思う。夢が叶つて、今、仕事を楽しめてしかたがない毎日です。「夢を叶えたドラえもんは今日も草津の未来を耕しています」。



イメージ



イメージ





FEATURE

# 銀色の波

## 北山田ビニールハウス群の守人たち

### 横江敏和さん 北山田の園芸農家



#### 失敗から学ぶ

横江さんの自宅は敏和さんが4代目となる専業農家。現在、30棟のビニールハウスで大根・メロン・ネギ・水菜・壬生菜・小カブラ・ホウレンソウを栽培しています。今は夏に向けて出荷するメロンの作業に追われます。

横江さんは地元の高校を出て県立農業大学校で学び、本格的に農業を始めたのが20歳のとき。今年20年目となるベテランです。幼いころから土に向き合う両親の背中を見て、「いずれ自分も」と決めていました。学校では授業や本から知識を得ましたが、その通りにいかないことを実践から学んだと横江さんは言います。「簡単そうに見えて何を作るにしても難しい。天候や気温とも相談しないとけない農業、土が話しかけてくれるわけでもないので失敗もします。また、その失

敗がないと新たな学びもないのが、これまた農業です。油断も手抜きも禁物です。「39歳、いやはや頭が下がります。」

天候？ビニールハウスだから関係ないのでは？という素人質問にも横江さんは丁寧です。「メロンが良く育つように、今日は余分な芽や花を摘む作業をしています。この時期、毎日でもしたい作業ですが、雨の日はいけません。雨になると雑菌が入りやすくなるんです。琵琶湖に近いハウスなら、大雨になると湖の水位が上がってハウスに水が溜まってしまい、野菜が被害を受けることもあるんです。それと夏ですね。夏場ならハウスの中は50℃くらいまで上がってしまう。暑すぎても作物はダメ。温暖化でしようか。夏場は野菜が作りにくい気がします。」

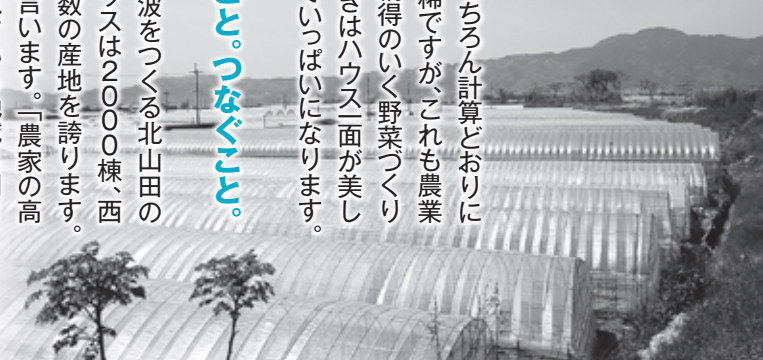
#### 土と向き合う

なるほど、ビニールハウスといつても天候や気温は影響するようです。それにしても、これだけの品種の野菜を育てるにはさぞや苦労が絶えないことでしょう。「作物の栄養管理と病気を防ぐための記録をつけています。今日した作業、播種日も収穫日も失敗したことも毎日書き留めておきます。過去の記録が次の野菜づくりにつながります。」

特に土づくりにこだわりますね。元気な野菜をつくるには土壌がしっかりしていないとできません。土壌検査をして野菜の性質も考えながら、適した土づくりに集中します。大変ですが、こうして色々な野菜をつくることは楽しくもあります。これが終わったら次にはあれを準備して、と播種から収穫までを他の野菜と重ならないように計算し

#### 「へんりゃん。ひなぐんじゅ。」

あの光の波をつくる北山田のビニールハウスは2000棟、西日本でも有数の産地を誇ります。横江さんは言います。「農家の高齢化で悩まれている地域も聞きますが、北山田はまだ比較的、若い人が就農してくれている方です。30〜40歳代が25人くらい、20歳代も5人くらいいます。私のように学校を出てすぐ継ぐ者もい







FEATURE

# 旬の間に

## 中西真由巴さん ジュニア野菜ソムリエ

れば、Uターン組も。子どもの時分から二緒の学校に通っていたから、気心も知れています。もう卒業しましたがJAの草津市農業後継者クラブにも入っています。こうした同年代の横のつながりは大切にしています。時々、息抜きと一緒に食事に行つては、結局、農業の話をしていますね。栽培の相談をしたりね。そりゃ愚痴なんかもありますけど。」

### 晴耕雨読

若い農業者が多い北山田といつても、高齢化は着実に進んでいます。「この辺りは市街化調整区域なので農地が宅地に変わることはありませんが、あと5年、10年もすれば耕作放棄地がで

「今は、草津アスパラづくりに挑戦したいと思っています。地中深く掘るアスパラは種を蒔いてから収穫するまで2〜3年、出た芽にも触れてはいけない繊細さがあります。いつかはチャレン

横江さんが目指す農業の姿勢は「晴耕雨読」。一般的な悠々自適な生活という意味でなく「土を耕しながら、常に学んでいく姿

くるかもしれません。ビニールハウスが放棄されると草が生い茂り、害虫も出てきます。近辺の畑に虫が移つて病気にもなります。余裕のある農家にやつてもうったり、新しくやつてみようと思う人を募つたり、とにかく引き継いでいく大切さが今の私たちに問われている気がします。」

「ジしたいと思っています。ここ北山田は水に恵まれ栓をひねるとどのハウスでも水が出ます。琵琶湖の恵みです。それと旧草津川の橋から眺めるビニールハウス群、その奥に見える比叡山が大好きです。朝や夕暮れは銀色の波が輝きます。滋賀の野菜の一大産地だと思つています。この風景を次につなげることは私たちの役目、いつも私の戒めとしています。」

「勢」を持ちたいとのこと。私たちの草津に豊かな土壌と農業があること、それを若い人たちがしっかりと受け継いでくれていることに、どこかホッとします。まずは私たち市民が知ることが未来につながります。

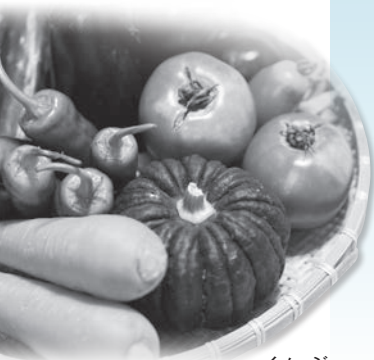


### 小さなレシビ

琵琶湖の近く、草津あおばな館の野菜コーナーには今日も色

とりどりの野菜たち。品種ごと生産者別に並べられ、朝摘みの新鮮さと安全に作られている安心感、そして、旬が旬の美味しさ

が伝わります。袋詰めになされたスナップえんどうの中にピンクの紙を見つけました。「からしまヨ あえ」の小さなレシビと震災被



イメージ



災地へのエール。中西さんの野菜です。

中西さんが野菜を作り始めたのは、子どもが小学校に入った時でした。「この子たちに何が残せるだろう…」そうしてたどり着いた答えが健康。その中心に「食」があります。だから中西さんの作る野菜は子どもたちや家族のために育てたもの。安心して食べられる安全な野菜を家族に食べさせたい。



### 畑を通じて、つながる

とはいえ、野菜づくり自体はなにせ初めて。栽培本を読みながらの試行錯誤です。でも自然相手の農業はそう上手くはいきません。それで、他所の畑を見て回ったり、真似をしてみたりとお手本を変えました。そうして畑仕事をしていると、近所の農家の人たちが色々と教えてくれるようになりました。「畑を通じて人とつながる。話すことで頑張れる。皆さんが私に、やる気のエッセンスをくれます。」中西さんの話は続きます。「同じ野菜だけでは飽きてしまうので、毎年、何か新しい野菜づくりに挑戦しています。この野菜でどんな料理ができるのかな、と考えると楽しくてしかたありません」

### 味を選ぶ

農家に嫁ぎ、野菜づくりを始めて気づいたことがあります。それは、旬の野菜は素材の味だけで十分に美味しいということ。そのことをみんなに知ってほしいという思い。「スーパーに行くと、野菜にかけるドレッシングや調味料が棚の端から端まで並んでいるでしょ。昔はマヨネーズくらいしかなかったのに。私たちは野菜

の味でなく、ドレッシングの味を選んでしまっていると思うんです。旬の野菜、採れたての野菜はちよつと蒸したり、茹でるだけでも美味しいんです。何もかけなくても野菜本来の甘みがあるってことを知ってほしいんです。でもね、農家のおばちゃんが、「こゝで一生懸命に言っても声が届かないでしょ。」冒頭のピンク色のレシビは中西さんのそんな思いが詰まっています。

農家だからこそ、実際に野菜づくりで汗をかいてきたからこそ野菜本来の味を伝えたい。そんな思いで悶々としているとき、野菜ソムリエという資格があることを知りました。思い立ったら行動が流儀の中西さん。野菜の知識だけでなく、「ベジタブルサイエンス」という生活習慣病予防のための栄養学、はたまた接客コミュニケーションまで、野菜を様々な角度から見つめ直す勉強をして、ジュニア野菜ソムリエとなつたのが昨年のことです。「この資格はあくまで自分に自信を持つためのもの。そして、私の言葉に耳を傾けてもらうためのものなんです」

### 手早く手軽に

中西さんは仕事や子育てで忙しい若いお母さんたちにこそ、野菜本来の美味しさを知ってほしいと思っています。「小学校の給食では野菜嫌いの子どももいるでしょ。本来、食は楽しいもの。給食も楽しみにしてほしい。だからもつと小さいころから野菜の美味しさを知ってもらいたい。幼いころの味覚は体が覚えてくれます。お母さん自身が野菜の美味しさを知らない、子どもたちには伝わらない」。だから忙しいお母さんのために手早く手軽にできて美味しいものを伝えたいと中西さん。「料理に時間をかけられない人もいます。お総菜や冷凍食品などすぐ手に入りますが、結局、野菜本来の味から離れてしまいます。簡単なことです。朝食にちよつと野菜の入ったみそ汁を食べてもらいたい。前日

に昆布とだしじゃこを水に入れておいて、翌朝は味噌だけ入れたらいいから」と。

「琵琶湖のある草津は本当に良いところ。野菜を美味しくしてくれる水も土も琵琶湖の恵みだし、風景だつて気持ちいい。観光地に住んでいるようで得した気分です。まず草津の人に、この美味しい野菜を届け、食べることに楽しさ・大切さを伝えたい。」生産者と消費者の間には、こんなに素敵な野菜ソムリエがいます。いただきます。



イメージ



イメージ



## くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。

どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる今ドキご近所のちょとこなれた毎日。

楽しくも少し考えてしまう。もしかして…これって、みんなの問題かも。



さく・com-com / え・まんじゅう

# おひとつ、どうぞ。

おひとつどうぞー。近所でよく見られた「おすそわけ」の光景も、ずいぶんと見かけなくなった気がします。それに替わるように、近所では宅配や通販のバイクやトラックの音が多くなりました。たくさん(余分に)あるものを仲間でシェア(share)する日本のおすそわけ文化は、「お互いさま」や「もったいない」といった言葉に表れる日本人の精神性を象徴するものの一つかも。震災の被災地にいち早く、ボランティアや義援金、そして救援物資が集まるのも、私たち日本人の深い部分に根づいている気持ちなのかも知れません。

おすそわけ、今いちど、見直したいものですね。

さて、この「おすそわけ」を近所のコミュニティに活かそうとした町会長のアイデアと行動力には今回も惜しめない拍手を送りたいものです。隣近所で顔を合わせれば挨拶はするものの、それ以上はどうすれば…って人も多いのでは。ポイントは「共通の話題」と「話のタネ」。考えてみればちょっと昔の地域社会では、農作業や子どもの成長など共通の話題が豊富だったような気がします。市内の“とあるまち”の話。そのまちでは、園芸好きの人が家で育った皇帝ダリアの苗を近所に配りました。皇帝ダリアは成長すると2階の窓から花を楽しめるぐらい育ちます。近所の人々が顔を合わすたびに「お宅の皇帝ダリアはずいぶんと伸びましたね。何か(工夫)しているのですか」と会話のきっかけが生まれたそうです。共通の話題ですね。

そういう意味でも市民農園は一つのアイデアかも知れません。慣れない農作業も隣の畑同士で教え合ったり助け合ったり、色々話のタネが期待できます。花や野菜の種が話のタネになるわけですね。このお話のように、「おすそわけ」しきれなくなったら、みんなで収穫祭をやってみるのはどうでしょう。できた野菜に知恵や技を出し合って、みんなで料理を作ってシェア(分け合う)する。ついでに、近所の料理上手な奥さんに教えてもらいましょう。いや、あの漬物名人のおばあちゃんに習ってみるのもいいでしょう。もう、話のタネだらけです。

これってやっぱり、みんなの問題。

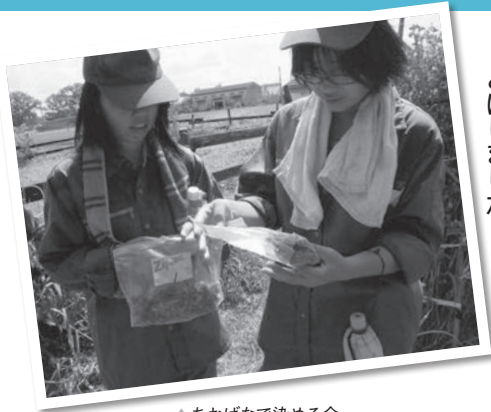


## 田んぼの仕事

「田んぼの仕事」についてのつづやき・エピソードを集めてみました。

- 人口が増えている影響かな。草津では住宅地が増え、田畑がどんどん減ってきている。
- 高齢になって田畑が続けられなくなり、耕作放棄地になるところもあるみたいだ。
- 町内で田んぼをもっている。有志が田植えや稲刈りをしてきている。肥料代などは出し合うので収支はトントン。イベントではここで獲れたお米を炊いて、皆で食事をする。
- 農業って本来おもしろいもの。種を植える楽しみをもっと伝えたい。家庭菜園をする人が増えればいいなと思う。
- 昔はコミュニティや近所づきあいの基本に農業があった。田んぼの仕事を「先代から教わる」「近所で手伝い合う」といったつながりがなくなったのが大きい。
- 田んぼは水が命。先代のアドバイスがないと作業ができないものだったけど、機械化が進んで一人でもなんとかできるようになった。これから“伝える”ことは難しいかも。
- 四方を山に囲まれた田舎で育った。草津に引っ越してきたとき、空が広いと感じた。琵琶湖と田んぼのおかげだと思う。その上には建物をたてないから。住んでいても意外と気がつかないこと。





▲あおばなで染める会

イベントの企画は「実行委員会」で練ります。ある日、実行委員の一人がつぶやきました。「高校生や大学生のまちづくりって、どうなっているんだろう」。中高年から年配者中心の私たち。若い人たちの活動って、耳にすることはあってもよく知りません。そこで高校生による「湖南農業あおばなで染める会」と大学生中心の「びわこてらこや」による活動発表と対談タイムを設けることにしました。

## 企画は イベントの命



このコーナーは、まちづくりセンターの登録団体でつくる「運営協議会」が担当します。運営協議会は、それぞれ自身の活動から少し離れて「みんなの場所」としての、センターの役割やまちのことを考えながら、みんなで一歩ずつ成長する場所です。

## イベントのススメ

市民活動であれ、町内会であれ、「イベント」って大切です。自分たちの活動や思いを知ってもらったり、新しく仲間になってもらったり、メンバーが交流したり：普段の活動とは違うからこそできることがあります。今回は3月に行った「13周年イベント」にスポットを当て、主催者も参加者もナットクのために、私たちが大事にしていることをお伝えします。



▲びわこてらこや

## 用意は丁寧に。 当日は楽しむ！

私たちの中でも穏やかな口調で聞き上手な人を司会者にして、若者たちと何度も会って打ち合わせします。先生や親以外の大人の前で発表する機会の少ない若者たちが緊張せずに発表できるように心がけました。司会者の絶妙な語り掛けと時折見せるアドリブに会場からは笑い声、そして真剣にかつ笑顔で大きくうなずきながら耳を傾けます。緊張も解け、会場が一体になりました。よくよく練った事前準備や小さなフライングプレーが重なり温かい空気を生んだのです。

## できることを 少しずつ集結

昼食は今や恒例となったカレ。メンバー有志による、わか調理チームが150食分を用意します。さぞや食材と格闘？と思いきや、そこは毎年のこと、もう慣れっこです。テキパキと野菜の山を調理しながらも楽しいおしゃべりは忘れません。まちづくりセンターという「場所」でつながった人たちが一緒に調理し、話し、食べる。心もお腹も一杯になりました。調理ができる人、材料を買いに行ける人、お米を提供してくれる人、食後にちよつと甘いものを用意してくれる人。当日は参加できない人も含め、登録団体皆ができることを少しずつ集めて成り立つイベントです。

**声** 調理って、最高に充実したコミュニケーションツールだと思えました！毎年楽しみにしています。

## 頑張りすぎず、 いつもの延長

午後はお待ちかねのステージ発表、腕の見せ所です。やっぱり発表する場があつてこそ、日ごろの練習にもやる気が起きるもの。そんな練習の成果でしょう、昨年より上達している様子に会場も拍手！日ごろは登録団体の仲間として共に「まちセン」のことを考え、行動し、会議室では時に意見が分かれることがあつても、仲間の声援はなにより糧になります。ステージと会場の笑顔に運営協議会の原点を感じます。

**声** 毎年発表していて、一回一回の失敗や成功が大事なステップアップにつながっていると感じています！

**声** 実行委員だけでなく前日・当日全ての登録団体が何かに関わり、結束の強さに感動しました。まさに「みんなであつくる」周年イベントですね！

## 主催者であり 参加者

限られた予算や時間の中で、みんなができることで少しずつ関わりながら創る手づくりイベント。みんなが主催者でありお客さんだから、多少上手いかないことがあつてもご愛敬。それすら笑いで吹き飛ばす。ここに毎年イベントを積み重ねてきたつなりの強さがあります。

- 午前** 「若者たちのメッセージ」市内でまちづくりにつながる活動をしている若者紹介
  - ・湖南農業あおばなで染める会
  - ・びわこてらこや
- 午後** 登録団体ステージ発表
  - ・花架拳
  - ・日本民謡八祥会
  - ・ひだまりの会
  - ・ザ・セブン
  - ・草津平和委員会
  - ・生命の貯蓄体操普及会
  - ・待コミュニケーション
- 閉会** みんなでまちセン音頭



みんなとめんめん 通算50号  
●お問い合わせ先  
まちづくりセンター  
☎562-9240 ☎562-9340  
✉machi@kusatsu.or.jp





# より道 こ道

## 第5回・萩の玉川



「いつもの道、から  
一歩それてみる。  
大人にこそ寄り道の  
時間が必要だ。」

### 旧街道の街並み

石田 はま子

東海道沿い「野路の玉川」のポケットパーク。ここは日本六玉川の一つに数えられ「萩の玉川」とも呼ばれた名所跡です。十禅寺川の伏流水が湧き出たというこの地、中世には多くの

和歌に詠まれ、江戸の代には浮世絵にも描かれました。「源平盛衰記」の「佐々木馬を奪う」を元にした民話「すつとびの弥一と白萩」には「野路で馬子・弥一の馬を奪い野洲川で弥一を切り捨てた佐々木高綱が、後年、観音像を刻み白萩を植え菩提を弔つた」とあります。

東海道を南へ。左手に見える森が新宮神社の御旅所。奥の小さな池は、玉川小学校の建設により埋め立てられた観音堂池の名残りです。

江戸時代に観音堂池から火災に遭った黒焦げの観音様が発見されました。今は修復され、野路の常徳寺観音堂に「弥一観音」として安置されています。今に残る字名・観音堂や観音堂池、勸音像に高綱と馬子

が偲ばれます。

さらに進むと右手に見える池が江戸時代の「名所図会」にも描かれた弁天池です。池の小島に弁財天が祀られています。ここは南笠の氏神、治田神社の御旅所で、五月の祭礼には神輿の渡御があります。一月の神事ではわらで編んだ蛇(ジャ)神獸(龍)が治田神社から到着し、農業用水の確保と五穀豊穡を今も祈ります。

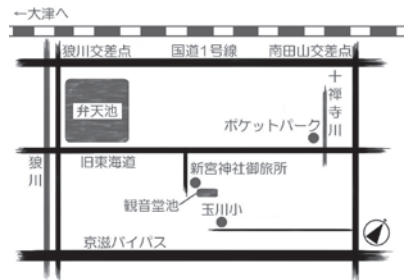
遊歩道脇の初御代桜も、民話「おつゆと喜助」に因んで植えられました。五月の若葉は再会できなかつた村娘おつゆと飛脚喜助を慰めているようです。

こうして野路・南笠には、多くの物語が残ります。

### 民話「おつゆと喜助」

飛脚の喜助とおつゆの悲恋。約束の桜の季節に喜助が現れなかつたことを憂いたおつゆは弁天池に身を投げてしまう。喜助には来られない理由があった。

(「みなみがさひがしのむかしむかし」を参照)



ひとりで悩まないで！まずはお電話を！  
**くらしサポートセンターしが草津**がお手伝いします

くらしサポートセンターしが草津  
**くらし何でも相談**  
 TEL:077-564-5512  
 住所：草津市大路1丁目1-1 TEL:932 4F 4 0 6

センターへの相談は無料です。

- くらしサポートセンターしが TEL: 077-522-4600
- くらしサポートセンターしが大津 TEL: 077-572-7720
- くらしサポートセンターしが彦根 TEL: 0749-27-3500
- くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL: 0748-37-5522

**52** 株式会社 **三井田商事**

JR南草津駅前に移転しまして6年目を迎えました。  
 弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスをしております。又、企業・一般の方への水の宅配事業も展開しております。弊社も地域と共に発展したいと考え、  
**土曜出勤日には駅前及び会社周辺の清掃活動を実施**しております。  
 今後も地域に貢献し、共に成長していけるよう日々努力して参りたいと考えております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津1丁目1-5  
 TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651



# そのまちに… いと ICT



ICTがやっと、まちに追いついた。  
ずいぶんと身近に、わかりやすくなったICT（情報通信技術）。  
今こそ、あなたのまちのコミュニティに活かすチャンスです。  
そんな事例を毎回ご紹介します。

ウェブサイト  
(草津市公園事務所)



ICT紹介、まずは「王道」といっても良い「ウェブサイト」いわゆるHPです。これも立派なICT。草津市公園事務所では市内の児童公園を写真や地図などで紹介しています。検索機能もあって近くの公園も調べやすい。ウェブサイトは、あなたのまちでもおすすめスポットや生活必需ポイント、はたまた危険個所などの発信に役立ちます。まちの情報発信の中心としてウェブサイトは基本に考えたいですね。

草津市公園事務所 <http://park-698.net/kouen>

## 平成28年度 コミュニティ事業団ファンクラブ

### まち活 **マッチ** の会 会員募集中!!

草津市コミュニティ事業団では、下記の施設が取り組む様々な活動を協力支援していただくために、コミュニティ事業団ファンクラブの会員を募集しています。

みなさまの応援・ご協力をお待ちしています!

**お得な会員特典がいっぱい!**

- 道の駅草津** 全館ご利用 200円券
- まちづくりセンター**
  - まちづくり機器貸出 1 割引
  - 講座・セミナーへの優先申込 (限定有)
- ロクハ公園**
  - プール利用料 100円券
  - イベント優先権 (限定有)
- ロクハセンター**
  - まちづくり機器貸出 1 割引
  - ロクハ荘 温浴施設 大人1人1回 無料 (子どもでも可)
  - なごみの郷 温浴施設 大人1人1回 無料 (子どもでも可)
  - ロクハプール 温浴施設 100円券
  - ロクハ荘 菜の花 コーヒー 1杯サービス券 (全席サービス券限り)
  - なごみの郷 和味屋 200円券 (全席サービス券限り)
- ロクハ荘**
  - 温泉施設利用券(1回分)
  - 「菜の花」コーヒー1杯サービス券
  - 講座への申込優先権 (限定有)
- アミカホール**
  - コンサートのご優待 (限定有)
- クレアホール**
  - コンサート申込優先権 (限定有)
- なごみの郷**
  - 温泉施設利用券(1回分)
  - 「和味屋」200円券
  - 講座への申込優先権 (限定有)

年会費 1,000円

問合せ  
 ☎ 565-0404 ☎ 565-1221  
 ✉ [community@kusatsu.or.jp](mailto:community@kusatsu.or.jp)

マッチのキャンパスバッグプレゼント

## 劇団 四季

## ファミリーミュージカル エルコスの祈り

落ちこぼれ・問題児と決めつけられて夢や希望、個性を奪われた子どもたちと優しい心をもつロボットの交流を描くファミリーミュージカル



8月6日(土) 16:00  
(約2時間の上演)

草津クレアホール

定員 約700人(全席指定)

チケット販売 5月14日(土) 10:00~

料金 大人 5,000円  
小学生以下 3,000円

問合せ

草津クレアホール ☎ 564-5815

スマイ印刷は、  
自然環境を守る地球に優しい  
製品づくり「エコ印刷」に  
取り組んでいます。

SUMAI

株式会社スマイ印刷 [sumaiprint.com](http://sumaiprint.com)

本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890  
東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525  
甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

読売新聞

街の安心、安全、  
教育、環境を  
応援していきます。

草津五店会 TEL 077-568-2146



# 草津

草津市北山田町に広がるビニールハウスで7月ごろにつくられているものは「草津〇〇〇」さて何でしょう？ 給食にも出てきますね。ヒントは4ページ。

NEW



イラスト：大村恵(編集ボランティア)

### 応募方法

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募もお待ちしています。

〆切 **6月30日(木)** 当日消印有効

宛先 〒525-0037 草津市西大路町9番6号  
(公財)草津市コミュニティ事業団「コミュニティくさつ6月号」係  
☐ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎ 562-9340

### プレゼント

正解者の中から抽選でロクハブール親子ペアチケット(900円相当)を5名様にプレゼント。

### ロクハ公園屋外プールオープン

7月9日～8月31日 10:00～17:00

お休み 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)

但し、7月21日～8月31日は無休

詳しくはロクハ公園のHP <http://park-698.net>

### 前回の答え



たくさんのご応募  
ありがとうございました。

※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。

NEW

## Next きみたちの草津

次代の草津を担う若い人たちの眼に、ここ“草津”はどのように映っているのでしょうか。見えてくる明日の草津があります。

立命館大学JAZZ CLUB  
Σ Spirits Jazz Society



播磨鏡人さん 広島県呉市出身

草津は賑やかで活気のある印象。なにより生活するのに便利なお気に入り。ただ学生と出会うばかりで、まちの人と学生が出会うことが極端に少ない気がします。学生の暮らしに困っている人もいると思う。学生はもっと、“生活の場所”として草津に関心をもたないといけませんね。



中津裕美さん 奈良県大和郡山市在住

おばあちゃんっ子です。いずれ家族や子どもをもったときのことを考えます。私の暮らしたいまちの条件は便利さだけでなく、隣近所のコミュニティがあること。草津は便利さもつながりも程よく、将来、暮らしたいまちの一つです。

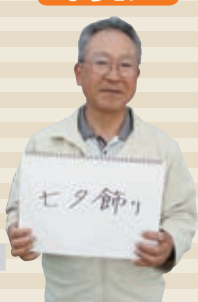


# ポイント

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

## 夏が来た!と感じるとき

まちセン



アマカホール



なごみの郷



ロクハ荘



クリアホール



ロクハ公園





熊谷栄三郎の  
**徒然草津**  
つれづれくさつ

第21回

「たり苦しい」

その2

熊谷栄三郎



お金やお米などが少し足りないかな、というときに、草津などで使われることがある「たり苦しい」という言葉。草津弁とも思われているが、私には市民生活への普及度がちょっと低い気がする。ひょっとしたらこの言葉、そう遠くない昔にどこから旅をしてきて、草津周辺に居つたのではないか。

そう思い初めたのは、まず草津市コミュニティ事業団の職員が「岡山県の津山で暮らしたことのある母が使う」と教えてくれたから。さらに公民館の集まりで男性が「鳥取出身の妻がよく使う」と話してくれたことも。

市内のクリニックスの、山口県出身の看護師さんの証言も貴重だった。山口では「たり臭い」と言っていたというのだ。

九州・大分県湯布院出身のTさんは「たり苦しい」は大分でも使うと思込んでいて、わざわざ故郷に電話して調べてくれた。でも勘違いだった。草津・矢橋育ちの奥さんがしばしば使うので、いつのまにか大分の言葉と思

込んでいたのだと。

そんな話を集めているうち中国地方とくに岡山、鳥取、兵庫の役所に電話で尋ねてみたくなった。実行した。結果は――。

たとえば岡山県津山市役所の三十六歳の広報課職員が周囲四人の職員に聞いてくれた。うちの一人、三十歳男性が使うと。

鳥取市役所文化財課の四十三歳の男性は「私も、隣席の四十代の男性も使う。町の若い人もけっこう使いますよ」。鳥取市では元気に生きている言葉らしいのだ。

兵庫県赤穂市役所。六十代女性が「若い人はあまり使わんけど、私らは使います」。

明石市の市史編纂室。職員が「それ、私に使わんけど、十二年前刊行の辞典『ひょうごの方言』に載ってますよ」と該当欄を読んでもくれた。その末尾に「この言葉は『日本方言大辞典』には載っていない」の行。そんな言葉にも注目しているんだという著者の誇らしげな記述が気に入った。この題、次回へ続く。

読者の声

たくさんのご意見ありがとうございます。



3/15号「お父さん、出番ですよ。」に寄せられた感想から

- 「お父さん、出番ですよ」の記事が心に響きました。我が家の夫は全く興味を示さないのですが、市民センターの行事に参加していると、本当に元気な壮年の方が活動しておられます。(66才女性)
- 私の父は73才。趣味も友だちもないので「うどんで故郷づくり」に登場した赤エプロンの男性たちのようにイキイキとした日々をすごして欲しいと思いました。(42才女性)
- 毎号楽しみで今回は「お父さん」が活躍していた。実家の地域ではこういった活動がないようで父がとてもうらやましいと言っていた。少しずつでも広がりがステキな仲間ができる場が増えてほしいです。(36才女性)
- 徒然草津「たり苦しい」をすごく興味深く読みました。私は草津で生まれ育ち三姉妹でみんな今でもつかいます。近所や友だちにも聞いてみたいと思いました。次回が楽しみ。(68才女性)
- 編集後記の「ウォーキングの際に地域のゴミを拾っている」話を読み、ありがたいと思いました。今までゴミが捨てられているのを見ると悲しく、マナーがなってないと思うだけ。次にゴミを見つけた時には拾ってみよう。まずは一つ！(38才女性)

「コミュニティくさつ」は、  
みんなで作る  
まちづくり情報誌です!

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえ市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身の町内会や団体メンバーに本誌を配布してくれる人



● 申込み・問合せ ●

(公財)草津市コミュニティ事業団  
まちづくり振興課内  
コミュニティくさつ編集部

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限ります。(この広告掲載は事業団が行う市民公益寄付金制度における寄付金として処理させていただきます)

- 1回1枠(名刺サイズ)5,000円【コミュニティくさつ】
- 約57,000部発行(年4回)
- 市内全戸配布のほか、市内公共施設や銀行等に配架

● 申込み・問合せ ● (公財)草津市コミュニティ事業団 ☎ 565-0477

「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

